

日本や世界におけるAI関連のルール作り

やざわ くら

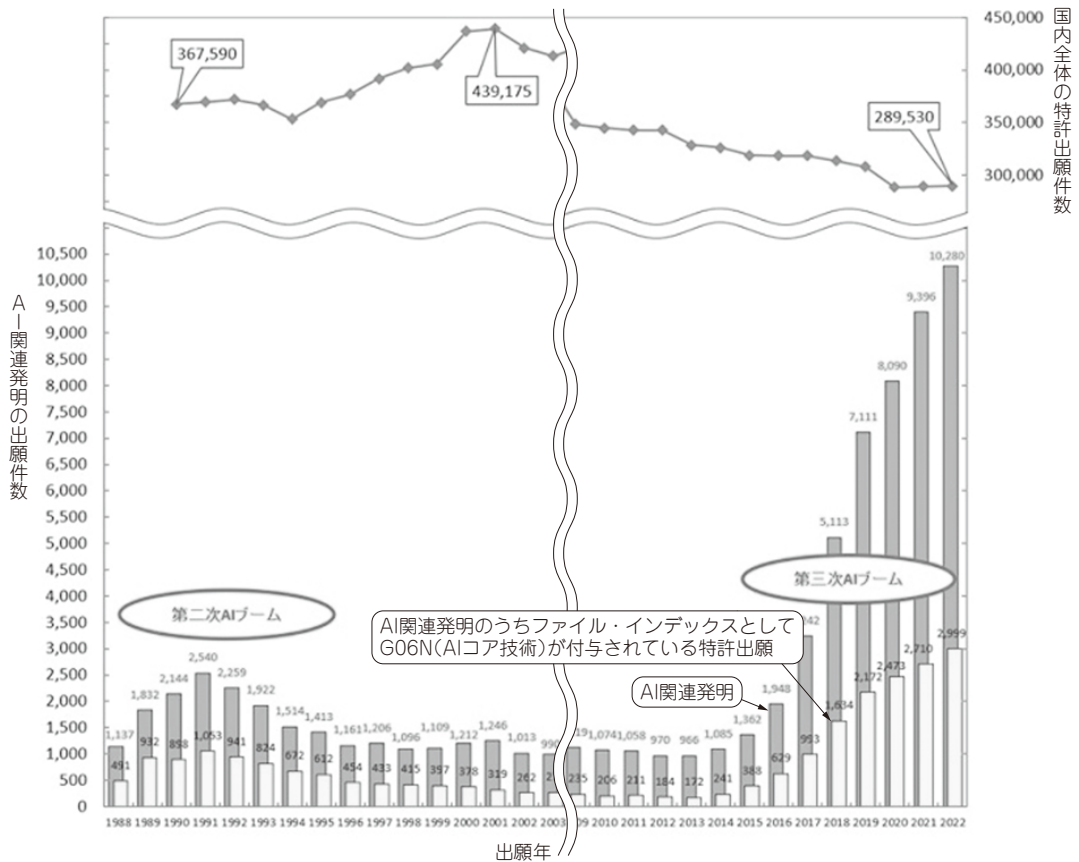


図1(2) AI関連発明の出願状況(引用：AI関連発明の出願状況調査，特許庁，2024年10月，p.3 図3)

近年、生成AIの目覚ましい発展により、生成AIの導入を積極的に推進する企業が増えてきています。例えば、

- コンテンツ制作分野におけるベース・モデル制作
- 顧客サービス分野における利用者向けサポート
- 情報サービス分野における要件定義やプログラミング
- 建設分野におけるデザイン案作成
- 材料開発の分野における新材料開発データ駆動型アプローチ (Materials informatics)

など、さまざまな産業で仕事を助ける生成AI活用(1)が進んできています。また、生成AI活用が進む中で、AI関連発明の特許出願(2)も増加してきており(図1)、その経済的効果(3)も考慮すると、今後ますます生成AI活用が加速するものと考えられます。

そこで本稿では、生成AI活用の前提として把握しておくべきポイントに関して解説します。